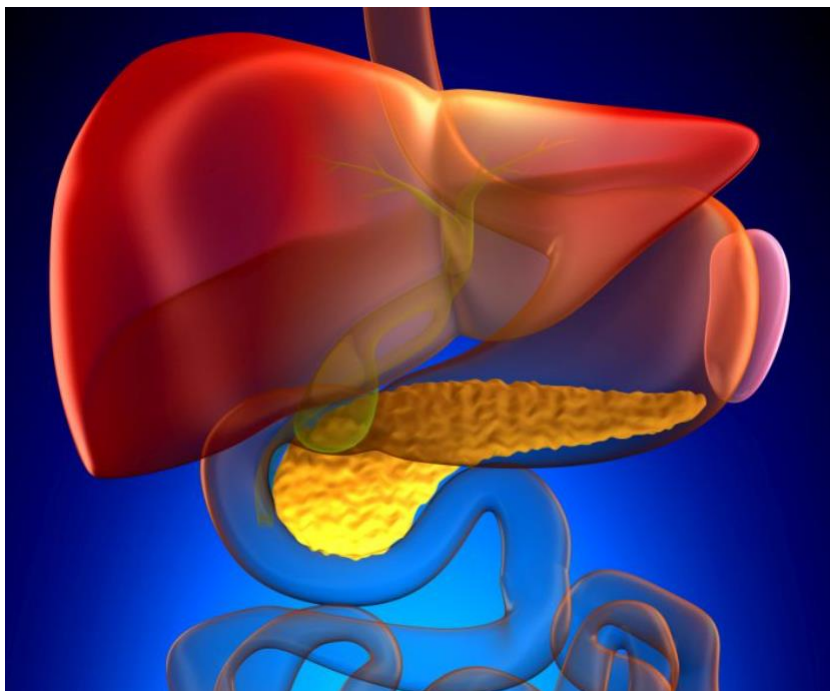


早期慢性膵炎と機能性胃腸症の違いについて

機能性胃腸症とは、内視鏡や超音波、CTなどで癌や潰瘍といった病気がみられないにもかかわらず、上腹部の痛みやもたれ感、食後の膨満感、不快感などを訴える病気です。**機能性胃腸症**は胃酸分泌亢進、消化管の運動異常や知覚過敏などで起こり、慢性的に持続する上腹部痛の原因となります。



一方、早期の慢性膵炎は、長期にわたり軽微な病理組織学的変化を繰り返すため、診断が難しく、上腹部痛のみが先行し、機能性胃腸症との区別が難しくなります。実際に、機能性胃腸症と診断された患者さんの24~27%に慢性膵炎に合致した膵液分泌能の低下がみられたと報告されています。



当クリニックでは、早期の慢性膵炎と機能性胃腸症をしっかりと鑑別し、治療を行っています。

